



国立国会図書館所蔵



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



住友ベークライトは幅広い分野の製品を生産・販売しており、用途も多岐にわたります。中でも特にSDGsへの貢献が大きい製品を「SDGs 貢献製品」として認定し、普及を促進することでSDGs達成に貢献しています。



住友ベークライトは、2010年「日本経団連生物多様性宣言」パートナーズに参加し、事業活動による自然環境への影響を認識し、生物多様性の保全に取り組んでいます。静岡工場敷地内に5年間の造成期間を経て、2017年にビオトープ「憩いの杜」をオープンしました。古代ハスの「大賀ハス」や静岡県絶滅危惧種指定の「ミナミメダカ」なども生息する日本の「里山」のような自然豊かな環境を公開し、観察会など社会貢献活動も実施しています（現在新型コロナウイルス感染予防のため休園中）。

百花園

ひゃっかえん

風流を育てた、庶民の草庭

江戸市中は、まれに見る緑豊かな都市だったといわれています。その理由は約300諸侯の大名の敷地に造成した、さまざまな回遊式の「大名庭園」。火事などに備えて分散された上屋敷、中屋敷、下屋敷それぞれに庭園があり、將軍の御成りの際の饗応や、政治的な社交の目的にも使われていました。

一方、隅田川の東向島に現在も残る「向島百花園」は、文化元年（1804）、日本橋で骨董店を営んでいた佐原鞠塙（きょうこう）が元旗本の屋敷を買い取り開園した民間庭園。蜀山人と呼ばれた狂歌師の大田南畝（なんく）、酒井抱一（ほういつ）や谷文晁（ぶんせう）など文化人の応援もあり、春や秋の七草、朝顔や萩などが咲き乱れる花屋敷、町人の草庭として江戸庶民の行楽地となりました。堅苦しい様式の庭園ではなく、詩歌や虫聞き、月見なども楽しんだ文人たちの粋で風流なこだわりが、今日も受け継がれています。

江戸の庶民たちに自然を味わう機会を提供し、百花園を通して暮らしの豊かさを育んできた貢献度は、住友ベークライトが企業として自然環境に向き合い開設した、ビオトープ「憩いの杜」と重なるところがあります。

プラスチックのパイオニア

 住友ベークライト株式会社〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目5番8号 天洲パークサイドビル
TEL:03-5462-4111 FAX:03-5462-4873 <https://www.sumibe.co.jp>